

# 人文学部卒業研究

「キャラ」を使ってコミュニケーションをとる

題 目

現代の若者たち

---

指導教授

柳谷 啓子

印

---

提出年月日

2018年 12月 17日

---

学籍番号

HI15016

---

氏 名

加藤 優

---

### 要旨

本研究の目的は、いわゆる「キャラ」を演じなければコミュニケーションが取れない若者を対象に、そうした「キャラ」がどのように形成されていくのかをインタビュー調査を元に解明していくことである。

千島（2016）では、「キャラ」を「小集団内での個人に割り振られた役割や、関係依存的な仮の自分らしさ」と定義している。土井（2009）はグループ内での役割を演じ、お笑いのようにボケ役とツッコミ役とに分かれ、互いに補完し合うことによって人間関係の維持を図っているのだという。こうした意味での「キャラ」という語の使用は、1999年の『現代用語の基礎知識』から目立つようになり、若者の間に浸透したと考えられる。

本研究では、キャラが形成されていく過程を調べるために、20年代の若者を対象に1) 生育過程でどのようなメディアに触れてきたのか、2) どのような時代背景の中でどのような影響を受けて育ったのか、3) 過去の学校でのスクール・カーストやグループ内でのキャラ振り等がどうであったのか、などについて、ライフストーリー調査を実施する。合わせて、筆者自身の内省も加味する。さらに、いわゆる「キャラ」という言葉が存在しなかった時期に人格形成期を迎えた現在の60代も比較対象として調査する。

分析の結果、若者の「キャラ」の形成過程では4タイプである「外部影響タイプ」「混合タイプ」「内部作成タイプ」「キャラ無し」があることが判明した。また特に中学生頃に「キャラ」の認識や変化が始まることがわかった。「キャラ」についてもコミュニケーションや居場所の確保等メリットもあったが、同時に「キャラ疲れ」によるデメリットが存在することも明らかになった。「キャラ」については「いじられキャラ」「いじりキャラ」など様々に豊富であり、場面ごとによって切り替える人物の存在が多い結果を示した。

60代以上の「キャラ」については、調査対象者からの回答では「キャラ」をもっていない人物が多かったが、周囲の人物への聞き取り調査の結果では、ほとんどの調査対象者に「キャラ」があるとの結果となった。したがって、この年代は「キャラ」の認識に対して千差万別であると推測され、「キャラ」の種類自体も現在に通ずるものがあると考えられる。

以上のように、本研究からは、若者の「キャラ」の形成過程は知ることができた。今後の課題としては、今回の調査では付随的な扱いとなってしまった60代以上の「キャラ」について、今回分析対象としなかった30代～50代も含めて調査を行うことで、「キャラ」とい言葉や概念がどの世代で受け入れられて現在のような「キャラ」化につながったのか、その歴史的推移を探っていきたいと考えている。

### キーワード

「キャラ」「インタビュー調査」「スクール・カースト」「グループ」「役割」

## 目次

1. 問題と目的.....	1
1-1 現代の青年のコミュニケーション.....	1
1-2 「キャラ」のあり方.....	1
1-3 「キャラ」と「キャラクター」.....	1
1-4 問題点.....	2
2. 「キャラ」の成り立ちについて.....	3
2-1 調査方法.....	3
2-2 研究の目的.....	3
3. 「キャラ」が出来上がるまで.....	3
3-1 研究データ.....	3
3-2 「キャラ」が作られる際の影響.....	4
3-3 「キャラ」を作ることによっての効果.....	4
3-4 「キャラ」にはどのような種類があり、1人でいくつ持っているのか.....	5
3-5 60代の一昔前の人には「キャラ」という概念が存在していたのか.....	5
4. インタビューによるデータの分析.....	6
4-1 インタビュー分析.....	6
4-2 若者からのデータ.....	6
4-3 若者のデータ結果.....	18
4-4 「キャラ」をもつ意味 結果.....	20
4-5 「キャラ」にはどのような種類があり、1人でいくつ持っているのかの結果.....	21
5. 60代以上の「キャラ」.....	21
5-1 60代以上のインタビュー結果.....	21
5-2 60代以上の「キャラ」事情.....	24
6. 考察.....	25
6-1 今回の結果と反省.....	25
参考サイト.....	26
参考文献.....	27